

## 第6期麻生区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和3(2021)年度～令和5(2023)年度】

計画の理念：みんなで支え合う 福祉のまち麻生～麻生区らしい地域包括ケアシステム構築をめざして～

令和元年度 川崎市地域福祉実態調査(麻生区)  
□市民調査結果／●関係団体調査結果

## □地域活動やボランティア活動の参加有無

- ・参加したことがある(62.8%) ※市内で最も高い
- ・参加したことがない(35.3%)

## □地域活動やボランティア活動の参加内容

- ①町会・自治会に関する活動(32.1%)
- ②環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動(25.0%)
- ③お祭りやイベントに関する活動(22.0%)

## □地域活動やボランティア活動に参加したきっかけ

- ①自分たちのために必要な活動だから(43.7%)
- ②人の役に立ちたいから(25.7%)
- ③つきあいのため(17.5%)

## □地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由

- ①仕事や家事が忙しく時間がない(51.5%)
- ②きっかけがつかめない(23.1%)
- ③身近に活動グループや仲間がいない、知らない(24.6%)

## □町会・自治会の加入率 加入している(74.2%)

## □町会・自治会に加入していない理由

- ①特に不便を感じない・必要性を感じない(28.6%)
- ②きっかけがない(22.0%)
- ③行事に参加できない(13.2%)

## □地域福祉を推進するために市民が取り組むべきこと

- ①地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること(42.1%)
- ②地域で困っていることや自分ができていることを知らせる情報が集まる場をつくること(35.1%)
- ③家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと(28.3%)

## □地域福祉の推進のため行政が開催すべき講座

- ①地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座(32.9%)
- ②支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座(30.7%)
- ③地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座(27.7%)

## ●地域活動において困っていること

- ①スタッフ(担い手)の高齢化(58.3%)
- ②新たなスタッフ(担い手)が確保できない(46.7%)
- ③活動のリーダー的人材が不足している(23.3%)

地域ケア圏域会議等で挙げられた  
地域の課題

## ○現在行われている地域活動の継続

- ・子供会はない。子育て世帯が転入しているが、世代を超えた交流の機会はない。
- ・町会・自治会の活動に参加している参加者が60歳代以上が多く、高齢化が進んでいる。
- ・一年ごとに町会・自治会役員が変更になり、引継ぎがうまくできず、年度ごとに課題が途切れてしまう

## ○地域活動の参加者の確保

- ・世帯として若い世代がほとんどいないため世代交代ができない。
- ・人材は潜在的にはいると思うが、なかなか表へ出てこない。

## ○地域活動の担い手の育成

- ・町会・自治会役員や活動の担い手、協力者不足の問題があり、今後の人材育成が必要。
- ・役員を担うことを負担に感じる人もいる。自主性を持って地域活動に参加できるように意識を高めていきたい。

## ○活動場所の確保

- ・様々な活動ができるので、地域に活動場所のようなものがあれば使いたい。

## ○地域で行われている活動例

- ・健康体操：地域包括支援センターの声かけで開始
- ・防災訓練：小学校で避難所運営などの宿泊訓練を行った。
- ・青少年見守り隊：小中学生の安心した下校のため、夕方にパトロールしている。
- ・地域の社会資源と連携：新規に高齢者見守り課題に向けて、大学等との共同研究・実践プロジェクトが発足した。

統計データでみる現状

## ○総人口

総人口 180,349人  
世帯数 79,323世帯  
1世帯あたり人員 2.27人  
(令和2年4月1日現在)

## ○人口動態

社会増(転入) 11,028人  
社会減(転出) 9,707人  
社会増減(転入-転出)  
1,321人  
(平成31年1月～令和元年12月)

## ○年齢3区分別人口割合

年少人口(14歳以下)  
23,274人(12.9%)  
生産年齢人口(15歳～64歳)  
114,112人(63.4%)  
老年人口(65歳以上)  
42,493人(23.6%)  
(令和元年10月1日現在)

## ○年齢3区分別将来人口推計

総人口  
令和17(2035)年の18.3万人がピーク  
→令和42(2060)年まで減少が継続  
生産年齢人口(15歳～64歳)  
平成27年 11.3万人  
令和42(2060)年 8.2万人(52.3%)  
老年人口(65歳以上)  
平成27年 3.9万人  
令和27(2045)年 6.4万人(36.3%)

総人口は増加しているものの、年少人口は緩やかに減少し、老年人口が増加している。将来は、生産年齢人口の減少及び老年人口の増加が継続すると予想される。

基本目標  
1区民が主役の  
地域づくり

「3年後を見据えて目指す麻生区の姿」  
・地域活動の担い手が発掘・育成される仕組みがある  
・幅広く区民が地域活動に参加している  
・まちのひろばやソーシャルデザインセンターの創出等に向けた取組を推進している

基本施策

具体的な取組名

★新規取組 ☆取組変更  
◎重点取組1  
人材の発掘と育成  
地域活動を担う

1 地域活動の参加につながる取組の推進 ◎

2  
地域活動の推進  
区民が主役の2 地域活動団体等への活動支援  
3 地域資源を活用した地域づくりの推進  
4 地区カルテを活用した地域づくりの推進3  
健康づくり・  
介護予防の推進5 健康づくり・介護予防事業の推進  
6 健康に関する知識の普及啓発

# 第6期麻生区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和3(2021)年度～令和5(2023)年度】

## 計画の理念：みんなで支え合う 福祉のまち麻生～麻生区らしい地域包括ケアシステム構築をめざして～

令和元年度 川崎市地域福祉実態調査(麻生区)  
 □市民調査結果／●関係団体調査回答

地域ケア圏域会議等で挙げられた  
 地域の課題

統計データでみる現状

### □保健や福祉の情報の入手先

- ①市の広報(57.1%) / 市全体(52.7%)
- ②町会・自治会の回覧板(41.8%) / 市全体(34.5%)
- ③インターネットのホームページ(26.6%) / 市全体(25.9%)

### □保健や福祉の団体の認知度

- 社会福祉協議会(54.9%) / 市全体(45.9%)
- 民生委員児童委員(60.1%) / 市全体(53.9%)
- 地域包括支援センター(53.8%) / 市全体(40.4%)

### □日常生活で心配ごとや悩みごとがあるときの相談相手

- ①同居している家族(70.9%) / 市全体(68.5%)
- ②友人・知人(51.9%) / 市全体(50.9%)
- ③離れて暮らしている家族(33.4%) / 市全体(34.8%)

- 社会福祉協議会(0.4%) / 市全体(0.5%)
- 民生委員児童委員(0.6%) / 市全体(1.1%)
- 地域包括支援センター等専門機関(3.8%) / 市全体(3.0%)

### □地域福祉を推進するために市民が取り組むべきこと

- ①地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上(42.1%)
- ②地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくる(35.1%)
- ③家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やす(28.3%)

### □地域福祉を推進するために行政が取り組むべきこと

- ①福祉サービスを適切に利用できるような評価や内容の情報開示(44.0%)
- ②サービス利用ができない、結びつかない人への対応の充実(42.4%)
- ③ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成(32.1%)

### ●活動団体と地域住民との交流・連携

- ・比較的図れている(45.0%)
- ・あまり図れているとはいえない(33.3%)

### ○制度や窓口の周知

- ・どのような時は医療保険で、どのような時は介護保険なのか、そのすみわけが良く分からない。
- ・「地域包括支援センター」の役割や特徴を知らない方々もいる。できるだけ、多くの人が情報を得られるようにして欲しい。
- ・認知症や介護保険制度等、「自分事」として捉えていただくことの普及啓発がまだまだ必要。
- ・認知症予防や、なってからの生活についての話もいろいろ、そもそもそうなった時に制度としてある介護保険を活用できるのかという段階からよく分からない。具体的な事例と共に説明してもらいたい。

### ○効率的で効果的な情報発信

- ・配布物や回覧物が多く管理しきるのが大変。
- ・イベントを企画しても周知が行き届かないことが多く、参加するメンバーが固定化されやすい。
- ・年代や、ライフスタイルによっては地域課題が「他人事」である地域住民に、どう広報してどう伝えていくか。

### ○関係機関の連携の必要性

- ・相談できる日中はいいが、夜間や休日にかかる緊急事態は窓口も休みで不安になる。

### ○権利擁護に関する知識

- ・権利擁護に関する知識・意識が弱い。
- ・独居の高齢者が増えており、成年後見制度などの活用の方法の周知の必要性がある。

### ○障害者手帳所持者数

(平成25年度)  
 身体障害者手帳 3,861人  
 療育手帳 888人  
 精神障害者保健福祉手帳 983人

↓  
 (平成30年度)  
 身体障害者手帳 4,109人  
 療育手帳 1,095人  
 精神障害者保健福祉手帳 1,516人

### ○介護保険要介護認定者数

(平成25年度) 5,463人  
 ↓  
 (平成30年度) 7,309人

### ○児童虐待相談・通告件数

282件(平成28年度)  
 ↓  
 515件(令和元年度)

障害者手帳所持者数、介護保険要介護認定者数ともに増加している。  
 児童虐待相談・通告件数は増加がみられ、今後もこの傾向が続くと予想される。

## 基本目標 2

### 区民本位の福祉サービスの提供

〔3年後を見据えて目指す麻生区の姿〕  
 ・区民に利用しやすい情報とサービスが提供されている  
 ・各専門分野、支援機関の連携で相談支援に取り組む

### 基本施策

### 具体的な取組名

★新規取組 ☆取組変更  
 ◎重点取組

1 保健・福祉情報の発信と充実

7 保健福祉に関する情報発信の充実 ◎

2 窓口における相談体制の充実

8 窓口におけるサービス機能の向上

3 専門分野の相談支援体制の充実

9 子どもに関する相談支援体制の充実  
 10 保健福祉に関する相談支援体制の充実  
 11 虐待に関する相談支援体制の充実  
 12 成年後見制度への対応の充実  
 13 精神保健福祉事業の充実  
 ★14 専門分野の連携体制の強化



# 第6期麻生区地域福祉計画骨子(案)

【計画期間：令和3(2021)年度～令和5(2023)年度】

## 計画の理念：みんなで支え合う 福祉のまち麻生～麻生区らしい地域包括ケアシステム構築をめざして～

令和元年度 川崎市地域福祉実態調査(麻生区)  
市民調査結果 / 関係団体調査回答

地域ケア圏域会議等で挙げられた  
 地域の課題

統計データでみる現状

**□高齢や病気、事故などで手助けをしてほしいこと**

- ①安否確認の見守り・声かけ (50.3%)
- ②災害時の手助け (41.3%)
- ③炊事・洗濯・掃除などの家事 (27.7%)

**□高齢者や障害者、子育て家庭に支援できること**

- ①安否確認の見守り・声かけ (64.9%)
- ②災害時の手助け (36.1%)
- ③ちょっとした買物 (31.8%)

**□孤立死を防ぐために有効だと思うこと**

- 地域住民による声かけ、見守り (63.9%)
- 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有 (42.7%)
- 機器による緊急通報システム (35.1%)

**□地域における問題**

- ①高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど) (38.0%)
- ②地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など) (35.3%)
- ③地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など) (26.4%)

**□地域交流の必要性**

- 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ (27.4%) / 市全体 (25.7%)
- いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい (28.5%) / 市全体 (26.2%)

**□地域包括ケアシステムの理解度等**

- 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している (1.9%)
- 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない (8.4%)
- 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない (17.4%)

-----

**●地域における問題**

- ①高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど) (45.0%)
- ②地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など) (43.3%)
- ③障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など) (43.3%)

**○地域住民のつながりの希薄化**

- ・自分たちの地域に必要な社会資源を、自分たちで守り育てていくという地域包括ケアの意識の希薄さが目立った。
- ・地域での困りごとが起きた時に共有する場が少なく、関連機関との連携が図りにくい。
- ・近所同士の関わりや助け合い、住民同士のコミュニケーションの取り方について、考えていけるといい
- ・転入者への声掛けを実施しているが、繋がりが作りにくい。

**○地域における見守り活動**

- ・独り住まいの世帯にどこまで関わるか等、個人情報のことも難しい。
- ・認知症当事者が地域住民として周囲とつながりを保ちつづけられる環境の確保。

**○要援護者の把握・対応**

- ・高齢化のため、本来はサポートが必要だが周囲に知らせていない、気づかれていない人も多いかもしれない。
- ・災害時の避難の仕方等も、認知症の方の誘導や対応方法も日頃から役割のある住民に地域包括支援センターから講座等で伝えてほしい。

**○民生委員児童委員の活動**

- ・民生委員だけで地域の見守りをするのは限界がある。隣近所の付き合いが活発な地域づくりが必要。
- ・民生委員の欠員が続いており、なり手がいない。

**○民生委員児童委員**

委員数 140人  
 1委員あたり受持ち世帯数 557世帯  
 (平成31年4月1日現在)

**○1人暮らし高齢者数**

平成17年 3,316人 (高齢者人口の13.3%)  
 平成22年 5,170人 (高齢者人口の16.2%)  
 平成27年 6,333人 (高齢者人口の16.3%)

**○認知症高齢者数**

平成27年 5,990人 (高齢者人口の15.3%)  
 令和2年※推計 8,317人 (高齢者人口の18.8%)

**○町会・自治会の世帯数・加入率**

令和元年度 49,603世帯  
 63.6% (加入率)

1人暮らしや認知症高齢者をはじめとした、支援の必要な区民は増加傾向であり、今後もこの傾向が続くと予想される。

**基本目標 3**

**「ひと・もの・場」をつなぐ 自助・互助の仕組みづくり**

・3年後を見据えて目指す麻生区の姿  
 ・地域ぐるみで安全安心に暮らせる仕組みづくりに取り組む  
 ・地域の支え合いのネットワークがある

**基本施策**

**1 地域ぐるみの対応** 保健福祉課題の共有化と

**2 サポートの充実** 要支援者等への

**3 支援とネットワークの強化** 地域福祉を支える関係者の

**具体的な取組名**

★新規取組 ☆取組変更  
 ◎重点取組

15 認知症にやさしいまちづくりの推進 ◎  
 16 子育て支援・交流の場づくり  
 17 災害対応力の強化・支援  
 ☆18 地域活動団体の交流の場づくり  
 ★19 町会・自治会との連携  
 20 地域支援ネットワークの構築

21 地域における見守り事業の充実 ◎  
 22 災害時要援護者に対する制度の普及啓発

23 麻生区地域自立支援協議会の推進  
 24 地域包括支援センターとの連携  
 25 子どもに関わる機関・団体との連携  
 26 民生委員児童委員協議会への活動支援  
 27 麻生区社会福祉協議会との連携  
 28 在宅療養に関する取組の推進  
 29 社会福祉法人等の地域公益活動の推進  
 ★30 福祉関係団体への活動支援